

No. C01	Aグループ	年月日	令和5年3月5日(日)
---------	-------	-----	-------------

【設問1】事例記録の中の「相談の概要」【略A】の記載に相当する、相談者がこの面談で相談したいことは何か。事例記録を手掛かりに記述せよ。

今まで大学院進学を考えていたが、先輩の話を聞いて大学院に行くだけではダメではないかと思えてきた。しかし、自分に何が向いているのか何がやりたいのかわからず、どうしたらいいのか分からない。

【設問2】事例記録の【下線B】について、この事例を担当したキャリアコンサルタントがどのような意図で応答を行ったと考えるかを記述せよ。

安定した暮らしがしたいと考える理由を確認するため。また、相談者が大きな会社に入ることをどのように捉えているか、さらに、「大きな会社に入ること」と「安定した暮らし」とのつながりを確認するためと思われる。

【設問3】あなたが考える相談者の問題（①）とその根拠（②）について、相談者の言動を通じて、具体的に記述せよ。

①問題 相談者の問題は以下の2点である。（1）相談者の今後の進路選択における価値観についての自己理解不足（2）進路選択を行う上で必要となる手順や情報源についての理解不足。

②その根拠 根拠は次の2点。（1）相談者の「将来は、何となく父のような仕事につけたらいいなとは思っていた」、「何がやりたいのかとわからなくなってしまった」という発言。（2）相談者の「他の人はどうやって決めているんだろう」という発言。また、インターンシップなどに対して「どうしたらいいんだろう」という発言。

【設問4】設問3で答えた内容を踏まえ、今後あなたがこのケースを担当するとしたら、どのような方針でキャリアコンサルティングを進めていくか記述せよ。

このままではいけないと思うが、どうしたらいいのかわからない相談者の感情を丁寧に傾聴し、冷静に今後の進路について考えられるように促す。その上で、マイジョブ・カードの興味・価値観診断を紹介し、同意が得られれば、それを活用してもらうことで、進路選択における価値観の理解を深めてもらう。また、job tag等の職業情報収集ツールも紹介し、自己理解と実際の職業を結び付けられるよう促す。そして、job tagの求職ガイドを確認することを提案し、進路選択の上で必要となる手順や情報源の理解をしてもらう。以上により、相談者が主体的に今後の進路を意思決定し、前向きに行動ができるよう支援する。

注：解答用紙の裏面および行外に記述されたものは採点されません。
(2023.3)キャリアコンサルタント試験 実技（論述）解答用紙

No. C01	Bグループ	年月日	令和5年3月5日(日)
---------	-------	-----	-------------

【設問1】事例記録の中の「相談の概要」【略A】の記載に相当する、相談者がこの面談で相談したいことは何か。事例記録を手掛かりに記述せよ。

現在、大学3年生で、先日キャリア科目の講義でOBなど先輩の講話を聞く機会があり、就職も気になり始めた。希望していた大学の大学院へ行きたいという思いもある。今後の進路について相談したい。

【設問2】事例記録の【下線B】について、この事例を担当したキャリアコンサルタントがどのような意図で応答を行ったと考えるかを記述せよ。

相談者の「安定した暮らしがしたい」という気持ちを伝え返すことで相談者にその時のことを思い出して頂き、内省を促す。また、将来について具体的に考えられていないことを明確化する意図もある。

【設問3】あなたが考える相談者の問題（①）とその根拠（②）について、相談者の言動を通じて、具体的に記述せよ。

①問題 相談者の主な問題点は2つある。(1)自分が何が向いているかの適性や自分が何をやりたいのか分からず、自己理解不足である点。(2)エンジニアや業界、仕事全般に対しての仕事理解不足である点。

②その根拠 (1)「このまま大学院に行くだけではダメだと思えてきた」「自分に何が向いているのか、何がやりたいのか分からなくなった」等の発言から。(2)「何となく父のようなエンジニアの仕事につけたらよい」「業界についても調べたが分からなくなった」「インターンシップもあるようだ」等の発言から。

【設問4】 設問3で答えた内容を踏まえ、今後あなたがこのケースを担当するとしたら、どのような方針でキャリアコンサルティングを進めていくか記述せよ。

相談者の「何がやりたいか分からない」という気持ちに寄り添い傾聴し、引き続き信頼関係を構築する。そのうえで、(1)大学院進学と就職した場合について、相談者にそれぞれ考えられることを挙げて頂き、整理をし、内省を促す。また相談者が希望すれば、職業能力テストなどを活用し、ご自身の適性について把握をして頂く。(2)エンジニアの仕事や業界について、考え得られることを挙げて頂き。仕事理解を促進する。また jobtag などのツールに関する情報提供を行い、状況によりインターンシップへの参加を提案する。最終的には、相談者が主体的に今後の進路について意思決定できるよう支援していく。

注：解答用紙の裏面および行外に記述されたものは採点されません。
(2023.3)キャリアコンサルタント試験 実技（論述）解答用紙

No. C01	Cグループ	年月日	令和5年3月5日(日)
---------	-------	-----	-------------

【設問1】 事例記録の中の「相談の概要」【略A】の記載に相当する、相談者がこの面談で相談したいことは何か。事例記録を手掛かりに記述せよ。

大学4年生になるのを研究室と決める時期だが、キャリア科目の課題やOB・OGの話や父の職業への憧れもあり就職も気に入っている。元々希望していた大学院の思いもありどうしようもないからない。

【設問2】 事例記録の【下線B】について、この事例を担当したキャリアコンサルタントがどのような意図で応答したと考えるかを記述せよ。

「まだ具体的ではない」と受容し信頼関係を築きつつ、「安定に暮らし」が真の希望か確認すため伝え返して相談者の内省を促し、将来についてどう考えているのか明確にする意図があったと考え。

【設問3】 あなたが考える相談者の問題①とその根拠②について、相談者の言動を通じて、具体的に記述せよ。

- ① 問題 主な問題を以下と考える。(1)やりたい方向性はあるが整理できていない自己理解不足。(2)職業を選ぶ際の価値観の仕事理解不足。(3)進路が検討されておらずキャリアビジョン不在。
- ② その根拠 根拠は以下である。(1)「何となく父の好きな仕事につけたらいいな」と思いつつ「自分が何に向いているか、何をやりたいのか分からないな」との発言。(2)「他の人はどうやって決めてるんだ？」の発言。(3)父に大学院に進むつもりで勉強しろと言われた大学院に行くつもりだったが就職に興味を持ち迷っている。

【設問4】 設問3で答えた内容を踏まえ、今後あなたがこのケースを担当するとしたら、どのような方針でキャリアコンサルティングを進めていくか記述せよ。

まずはこの子ではないかと思ひ、どうしようもないという気持ちに寄り添い丁寧に傾聴を重ねて信頼関係を維持する。その上で、相談者の同意を得るから面談を進めたい。まずは「マイナビカード」等を活用しながら今まで勉強してきたことなどを振り返り、自身の適性や能力を整理し、そこからどんなことをしたいかの理解を促す。そして、OB・OGからどのように職業を決めたのかと聞くことで「職業を選ぶ際の価値観への理解を促す。さらに、それらとともに、大学院に進んだ際、就職した際のそれぞれについて考えていただき、進路を検討しキャリアビジョンを描いていくことで、相談者が望む進路を具体的に選ぶのを支援したい。

注：解答用紙の裏面および行外に記述されたものは採点されません。

No. C02	Aグループ	年月日	令和5年3月6日(月)
---------	-------	-----	-------------

【設問1】事例記録の中の「相談の概要」【略A】の記載に相当する、相談者がこの面談で相談したいことは何か。事例記録を手掛かりに記述せよ。

まもなく大学4年生になるが、ここまで大学院に進学を考えていた。講義や先輩の話を聞いて、就職も気になり、自分に何が向いている、何がやりたいのか分からず相談に来た。

【設問2】事例記録の【下線B】について、この事例を担当したキャリアコンサルタントがどのような意図で応答を行ったと考えるかを記述せよ。

相談者の考える安定した暮らしについて、内省を促し、そのために、どんな会社に入り、キャリア形成するのかを考えて頂き、将来像を明確化するために、応答したと考える。

【設問3】あなたが考える相談者の問題（①）とその根拠（②）について、相談者の言動を通じて、具体的に記述せよ。

①問題 大学院に進学することが、学歴や価値があるとの思い込みが見られ、自己理解不足から、自分が、何にむいているか、何がやりたいか分からないように、思われる。

②その根拠 思い込みについては、「もしかしたら、このまま大学院に行くだけではダメなのではないか」の発言から。自己理解不足については、「将来は何となく父のような仕事につけたらいいな」、「自分も理工系だから単純にエンジニアかな」の発言からそう思われる。

【設問4】 設問3で答えた内容を踏まえ、今後あなたがこのケースを担当するとしたら、どのような方針でキャリアコンサルティングを進めていくか記述せよ。

入りたかった大学に落ち、今の大学に入学したことを不本意と感じ、まもなく4年生になり、将来のことを悩む相談者に寄り添い、労いながら、今後について一緒に問題点を解消する。思い込みの解消のために、大学のキャリアセンターの活用を提案し、大学院卒のOBの就職状況など情報収集を促す。自己理解不足の問題点解消のために、大学で学んでいる事を改めて振り返ってもらい、将来の職業を検討するアセスメントツールとして、相談者の同意を得て、VPIの活用も検討。以上により、相談者がより良い進路を自律的に選択できるように支援する。

注：解答用紙の裏面および行外に記述されたものは採点されません。

(2023.3)キャリアコンサルタント試験 実技（論述）解答用紙

No. C03	Aグループ	年月日	令和5年5月28日(日)
---------	-------	-----	--------------

【設問1】事例記録の中の「相談の概要」【略A】の記載に相当する、相談者がこの面談で相談したいことは何か。事例記録を手掛かりに記述せよ。

CLは大学の4年生に間もなくなる。レポートで将来のことを思い描けず、大学院に進学か就職するか考えているが、自分に何が向いているのか何がやりたいのかわからなくてどうしたらいいか悩んでいること。

【設問2】事例記録の【下線B】について、この事例を担当したキャリアコンサルタントがどのような意図で応答を行ったと考えるかを記述せよ。

課題レポートで将来を思い描けなかったCLの気持ちを受容しながら内省を促し、CLの考える安定した暮らしについて詳細を確認し、CLの仕事に対する価値観や問題点を理解しようとする意図がある。

【設問3】あなたが考える相談者の問題（①）とその根拠（②）について、相談者の言動を通じて、具体的に記述せよ。

①問題 以下があると思う。(1)仕事に対する興味・適性に関する自己理解不足。(2)大学院進学や就職への情報不足と就職候補となり得る仕事の仕事理解不足。(3)キャリアビジョンの検討不足。

②その根拠 (1)課題レポートで将来具体的に描けなかったこと、「不本意ながら入学した」の発言から。(2)「大学院にいくだけではだめなのは」「世の中にはもっと色々な技術の活かし方があるのだな」の発言から。(3)「何がやりたいのわからなくなってしまった」「どうしたらいいのだろう」の発言から。

【設問4】 設問3で答えた内容を踏まえ、今後あなたがこのケースを担当するとしたら、どのような方針でキャリアコンサルティングを進めていくか記述せよ。

CLの将来に対する不安な気持ちに寄り添いながら、傾聴を続けてラポールを築いていく。大学に入ったきっかけやコロナ下の大学生活のことを話を伺い、内省を促してご自身の気持ちに気づいていただく。そのうえで、本人の同意のもと job tag を用いて、CLの仕事に対する価値観や職業興味を一緒に整理し、理解するよう努める。また、大学院進学や就職の情報収集等、整理と理解を促す。候補となる仕事に必要な能力を得るために何が必要かの情報収集を助力する。以上より、CLが自律的に将来のキャリアビジョンを中長期的に描き、大学院または就職かの選択肢を主体的に意思決定できるよう支援。

注：解答用紙の裏面および行外に記述されたものは採点されません。

(2023.3)キャリアコンサルタント試験 実技（論述）解答用紙

No. C04	Aグループ	年月日	令和5年6月11日(日)
---------	-------	-----	--------------

【設問1】事例記録の中の「相談の概要」【略A】の記載に相当する、相談者がこの面談で相談したいことは何か。事例記録を手掛かりに記述せよ。

まもなく研究室を決めなければならない時期だが、理工系だから先輩のように専門的な知識を活かして就職するか、父親に言われていた大学院に進むか相談に来た。

【設問2】事例記録の【下線B】について、この事例を担当したキャリアコンサルタントがどのような意図で応答を行ったと考えるかを記述せよ。

「安定した暮らしがしたい」という本人の気持ちはどこから出ているのか、そこから相談者が持つ価値観を聞き取れるのではないかと思い、内省を促そうとしているのが意図である。

【設問3】あなたが考える相談者の問題（①）とその根拠（②）について、相談者の言動を通じて、具体的に記述せよ。

①問題（1）将来どのような仕事に就いて何をやりたいのか、どのような暮らしをしたいのかわからない点（自己理解不足）。（2）専攻の活かし方がわからない点（仕事理解不足）。

②その根拠（1）「安定した暮らしがしたいくらしか思い描けない」「自分に何が向いているのか何がやりたいのかわからない」という発言から。（2）「先輩の話聞いて色々な技術の活かし方があると知った」「大学院へ行くだけではダメなのではないか」という発言から。

【設問4】 設問3で答えた内容を踏まえ、今後あなたがこのケースを担当するとしたら、どのような方針でキャリアコンサルティングを進めていくか記述せよ。

進学か就職課で迷う相談者の気持ちに寄り添い、自分なりに業界研究をしてみたことや不本意入学した大学で3年間頑張ってきたことを労う。希望していなかった今の大学に入学してみてもうどうだったか、進学したかった大学では何を学びたかったのか等を伺いながら、本人の同意があればVPI 職業興味検査を使用し、自己理解を深めるよう促す。また、仕事理解を進めるために job tag を紹介する。以上、やりたいことや自身の適性を理解し、適切に情報収集したうえで、相談者が複数の選択肢の中から最良な意思決定ができるよう支援していく。

注：解答用紙の裏面および行外に記述されたものは採点されません。

(2023.3)キャリアコンサルタント試験 実技（論述）解答用紙

No. C04	Bグループ	年月日	令和5年6月11日(日)
---------	-------	-----	--------------

【設問1】事例記録の中の「相談の概要」【略A】の記載に相当する、相談者がこの面談で相談したいことは何か。事例記録を手掛かりに記述せよ。

来年度から所属する研究室を決めなければならない時期にいる。将来エンジニアになろうと大学院進学を考えていたが、学部卒で就職しても世の中に貢献ができるのではないかと迷いが生じ、相談に来た。

【設問2】事例記録の【下線B】について、この事例を担当したキャリアコンサルタントがどのような意図で応答を行ったと考えるかを記述せよ。

安定した暮らしがしたい気持ちと将来の具体策がない不安な気持ちを受容・共感し、ラポール形成を図るため。また、今後の進路選定にあたり、具体的な判断基準を確認するように内省を促している。

【設問3】あなたが考える相談者の問題（①）とその根拠（②）について、相談者の言動を通じて、具体的に記述せよ。

①問題 A)自分のやりたい事を主体的に考えてこなかった自己理解不足。B)自分のやりたいと思える仕事を具体的に探したが分からず、職業経験もしてこなかった仕事理解不足。C)大学院進学への不明確な思い込み。

②その根拠 A)「将来はなんとなく父の」「なんとなくこのままではいけない」という発言から。B)OB、OGの講話を聞く機会からエンジニア以外にも理工系の知識や技術を活かして貢献できる仕事があることに気づき業界について調べたが、志望方向や適性が分からなかった点。C)父に勧められて考えた大学院への思い込みがある点。

【設問4】 設問3で答えた内容を踏まえ、今後あなたがこのケースを担当するとしたら、どのような方針でキャリアコンサルティングを進めていくか記述せよ。

将来の進路に繋がる研究室、そして大学院への進学か否かを決定する転機を迎え、迷う気持ちを受容・共感し、ラポール形成に努めていく。A) 今後の進路決定の判断基準等を含め、人生設計(中長期のキャリアプラン)について検討を進める。B) 本人の同意を得て、job tag(職業情報提供)により、自己の適性について把握できるよう促す。C) なぜ父親が大学院進学を勧めているのか、また、学部卒の方々の就労経験の話を知りたいうえで、今後の具体的な実行プランと一緒に作成する。以上により、本人が現在抱えているいくつかの課題から主体的かつ能動的に最適な選択ができるように支援していく。

注：解答用紙の裏面および行外に記述されたものは採点されません。

(2023.3)キャリアコンサルタント試験 実技（論述）解答用紙

No. C05	Aグループ	年月日	令和5年10月11日(水)
---------	-------	-----	---------------

【設問1】事例記録の中の「相談の概要」【略A】の記載に相当する、相談者がこの面談で相談したいことは何か。事例記録を手掛かりに記述せよ。

現在大学3年生で来年度から所属する研究室を決めなければならない。しかし、OB、OGの話聞く機会があり、学歴は仕事では関係ないとの話を聞いて大学院進学に迷いが生じ、どうしたらよいかわからない。

【設問2】事例記録の【下線B】について、この事例を担当したキャリアコンサルタントがどのような意図で応答を行ったと考えるかを記述せよ。

オンライン授業や馴染めていない現状を受け止めつつ、Zさんの言う「将来」について「安定した暮らしがしたいですね」と伝え返すことにより、まだ言語化されていない気持ちや価値観を探る意図がある。

【設問3】あなたが考える相談者の問題（①）とその根拠（②）について、相談者の言動を通じて、具体的に記述せよ。

①問題 （1）安定した暮らしについて不明確であり自己理解不足である。（2）将来、働きたい分野について漠然としており、仕事理解不足である。（3）多くの選択肢があり、現状等の整理不足がある。

②その根拠（1）「大きな会社に入り、経済的に安定した暮らしをしたい」くらいしか思い描けなかった」との発言。（2）「自分も理工系だから単純にエンジニアかな」との発言。（3）「大学に行くことには価値はあると思う」や「就職も気になって」、「インターンシップなどもあるようだし」等の発言から。

【設問4】設問3で答えた内容を踏まえ、今後あなたがこのケースを担当するとしたら、どのような方針でキャリアコンサルティングを進めていくか記述せよ。

不本意入学した大学で勉強量も多く、友人を作ることもできなかった苦労を労い、信頼関係の構築を目指す。まずは、（1）これまでの大学生活について面談を通して振り返っていただき、学業での興味、関心、強み、スキルなどの棚卸しをして自己理解を深めてもらう。（2）漠然と考えているのでjob tagを使って「エンジニア」などで検索し、職業と求人情報を知っていただく。また、OB、OGが務める企業にインターンシップできないか確認し、可能であればインターンシップを薦め、仕事理解を図る。（3）選択肢を一つずつ確認し、気になることから一緒に確認を行う。今後、Zさんが主体的に意思決定できるように支援する。

注：解答用紙の裏面および行外に記述されたものは採点されません。

(2023.3)キャリアコンサルタント試験 実技（論述）解答用紙